ケース 04　むらづくりの拠点と個性豊かな田園空間の広がる開発

2006 読谷補助飛行場跡地

＼ココがポイント／

- 村の中心として庁舎や運動広場等の**むらづくり拠点**を配置
- 地形と飛行場跡の景観を活かした**個性ある田園空間**の形成
- **大規模な農地整備**と**農業生産法人の育成**により地域振興を推進

本地区は、読谷村のほぼ中央に位置しており、返還前からほどんどの区域にフェンスが設置されていなかったため、出入り自由で施設内は黙認耕作が行われていました。そして、2006 年に全面返還が実現しました。

約 26ha を、新しい村のまちづくり拠点として役場庁舎や文化センター、グラウンドなどを整備、そして将来は滑走路跡を活かしたロードパークや展望広場なども整備する計画となっています。

その他の大部分は土地改良事業等により大規模な農地整備が進められてきました。安定的な農業の推進を図るため、担い手となる農業生産法人の育成に努めるとともに、「先進農業支援センター」で農業従事者の育成も進められています。

infomation

施設名 / 読谷補助飛行場	返還面積 / 293ha
所在地 / 読谷村	返還時期 / 2006 年

▲返還前の 1977 年の状況

現在の状況 ▶

※赤枠については、返還跡地の大まかな範囲を示している

読谷村役場周辺

読谷村地域振興センター・JA ゆんた市場

ケース 05　田園と海と川を活かしたウェルネスの里

2011 ギンバル訓練場跡地

＼ココがポイント／

- 地域住民の健康を守るための**医療・リハビリ施設の整備**
- **県内最大規模のサッカー場**の整備で北部地域活性化に寄与
- 地域の資源を活かした町民および観光客の**憩いの場づくり**

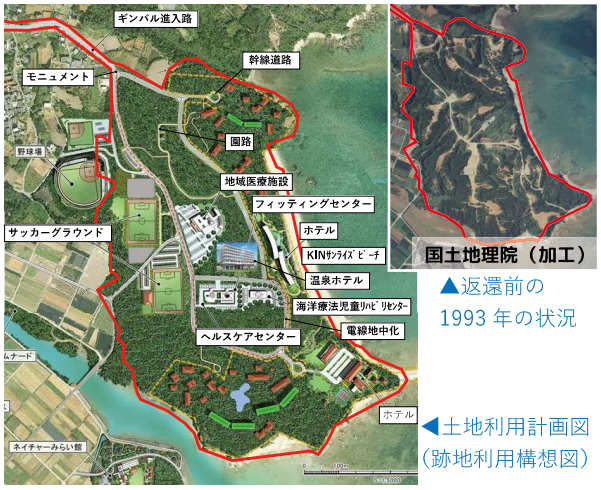
本地区は、1957 年からギンバル訓練場として使用され、2011 年に返還されました。

ギンバル訓練場一帯は、美しい海岸線やマングローブ、田芋や稲などの田園風景が広がる豊かな自然環境にあります。その地域の特性を活かしたウェルネスの里づくりを目指し、地域医療施設及びリハビリ関係施設、サッカー場等の整備を実施しました。また、沿岸部においてはホテル等の建設とともに、ビーチを造成する海岸環境整備事業に着手しており、さらには、新たな地域資源として 2015 年に湧出した温泉の活用を進め、多世代の地域雇用促進を図ることにより、『★近き者悦（よろこ）び、遠き者来る“里づくり”』の具現化に向けて進んでいます。

infomation

施設名 / ギンバル訓練場	返還面積 / 60.2ha
所在地 / 金武町	返還時期 / 2011 年

★近き者悦び、遠き者来る：孔子の言葉。「その地域の人がそこでの暮らしを喜んで誇りを持って生活していたらそれに引き寄せられて遠くから人がやってくる」という意味。



▲返還前の 1993 年の状況

◀土地利用計画図（跡地利用構想図）

※赤枠については、返還跡地の大まかな範囲を示している

金武町フットボールセンター

KIN 放射線・健診クリニック

金武リハビリテーション
クリニック

発達支援センター
ぎんばるの海

社会基盤編 「駐留軍用地跡地に整備されたインフラ施設の例」

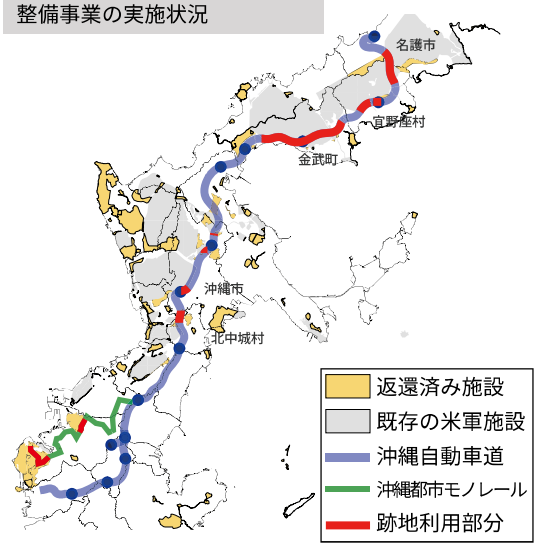
①道路・公共交通整備

復帰後、1975 年の沖縄海洋博覧会開催に合わせ、本格的な道路整備が集中的に進められました。沖縄初の高速道路である沖縄自動車道は 1975 年に「石川（現うるま市）～名護間」が開通し、1987 年「那覇～石川間」の開通をもって全線開通を迎え、約 104ha の返還跡地が沖縄自動車道整備事業に利用されました。

復帰前には那覇～名護間の所要時間は 2 時間半～ 3 時間もかかっていましたが、現在ではその半分以下の 1 時間余りとなっています。

また、県民や観光客の足として定着している沖縄都市モノールの整備にあたっては、返還跡地の利用に小禄金城地区の小禄駅をはじめ 5 つの駅が活用され、モノレール整備の大きな原動力になるとともに、交通広場なども整備され、地域の交通環境の改善に大きく貢献しました。

返還跡地における沖縄自動車道整備事業の実施状況



② 公園整備

戦後 27 年間に及ぶ米軍統治下で沖縄県は計画的な都市整備が遅れ、復帰直後の県内の県民一人当たりの都市公園面積は 3.3 ㎡で、全国平均 5.1 ㎡を大きく下回っていました。

復帰後、基地の返還が進み、跡地利用の一環として、残波岬公園や沖縄県総合運動公園、新都心公園などの整備が行われ、一人当たりの都市公園面積は、2008 年には全国平均を上回り、2017 年では沖縄県 10.9 ㎡、全国平均 10.5 ㎡となっています。

跡地に整備された都市公園

残波岬公園

沖縄県総合運動公園

③ ダム整備

本土復帰当時は毎年のように給水制限が行われており、1981 年から 82 年にかけて 326 日もの長期間にわたり給水制限がなされました。

深刻な水不足に対応するべく、北部訓練場内に福地ダム、新川ダム、普久川ダム、辺野喜ダムが着々と整備され、4 つのダムの完成とともに 1987 年にダム用地の返還が行われました。

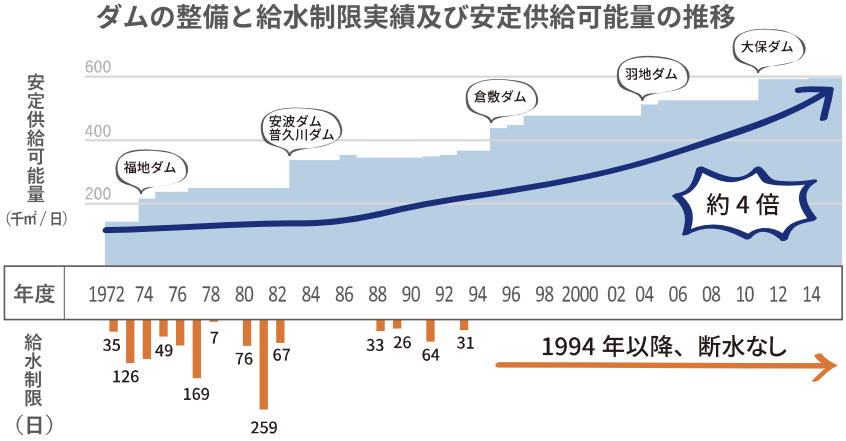
その後、跡地内外で整備は進められ、現在では県・国管理を合わせて全 11 のダムがあり、その効果として 1994 年以降、断水は発生しておりません。

福地ダム（1974 年完成）

新川ダム（1977 年完成）

普久川ダム（1983 年完成）

ダムの整備と給水制限実績及び安定供給可能量の推移



※内閣府沖縄総合事務局「復帰後42年間の沖縄における水事情について」